

129 番の歌 決して負けない 最後まで

がっかりすることがあっても諦めないでください

「あなたは.....私の名のために辛抱してきました」。[啓示 2:3](#)

ポイント：がっかりすることがあってもエホバに仕え続けるためにどんなことができるかを学びます。

1. エホバの家族の一員でいられるのは、どうして素晴らしいことといえますか。

私たちは終わりの時代に住んでいるので、いろいろな難しい問題を経験します。そんな中で、エホバの家族の一員でいられるのは素晴らしいことです。エホバは互いに支え合える兄弟姉妹を与えてくださっています。（[詩 133:1](#) 兄弟たちが一致して共に住むのは、何と素晴らしいことだろう。何と心地よいことだろう）幸せな結婚生活を送れるようにも助けてくださっています。（[エフエ 5:33-6:1](#)ともかく、夫の皆さんはそれぞれ、自分を愛するように妻を愛さなければなりません。一方、妻は夫を深く敬うべきです。6子供は、主に喜ばれるよう(*主と結ばれている)親に従ってください。そうするのは正しいことです）また、穏やかな気持ちでいられるように、洞察力や知恵も与えてくださっています。

2. エホバに仕え続けるのが難しいと感じることがあるのはどうしてですか。

2 それでも、エホバに仕え続けるのはいつも簡単というわけではありません。なぜでしょうか。他の人にいらいらさせられたり、傷つけられたりすることがあるからです。自分の弱さにがっかりすることもあるかもしれません。同じ失敗を繰り返してしまった時には特にそうです。でも、（1）仲間の兄弟姉妹に傷つけられた時、（2）夫や妻にがっかりさせられた時、（3）自分の失敗に落ち込む時にも、エホバに仕え続ける必要があります。では、1つずつ考えてみましょう。同じような状況を経験した聖書中の人物からどんなことを学べるかも考えます。

仲間に傷つけられた時

3. エホバに仕える人たちはどんな問題を経験することがありますか。

3 仲間の兄弟姉妹の性格や行動などが気になることがあるかもしれません。不親切なことをされたと感じることもあるでしょう。長老たちが間違いをすることもあります。そんな時、これは本当に神の組織なんだろうかと疑問に思うかもしれません。仲間と「肩を並べて」仕えるのではなく、こうした人たちを避けたり、集会に行くのをやめたりしてしまうでしょうか。（[ゼパ 3:9](#)その時、私は国々の言語を清い言語に変える。皆がエホバの名を呼び(*賛美し)、肩を並べて神に仕える(*一致して神を崇拝する)ためである）似たような経験をした聖書中の人物について考えてみましょう。

4. パウロはどんなつらい経験をしましたか。

4 聖書中の例。使徒パウロは、クリスチヤンであってもみんな完全ではないということをよく知っていました。例えば、①自分がイエスの弟子になったことを兄弟姉妹から信じてもらえないことがあります。（使徒 9:26 サウロはエルサレムに到着すると、弟子たちに加わろうと努力したが、皆は、彼が弟子であることを信じず、恐れていた）②自分の評判を落とすようなことを陰で言われたこともあります。（コリ二 10:10「彼は手紙では威厳があつて力強いが、会ってみると弱々しくて話も下手だ」と言う人たちがいます）③責任ある兄弟が他の人に悪い影響を与えかねない間違った行動をするのを見ました。（ガラ 2:11, 12さて、ケファ(c*ペテロとも呼ばれる)がアンティオキアに来た時、明らかに間違ったことをしたので、私は面と向かって指摘しました。12 ケファは、ヤコブの所からある人たちが来るまでは異国の人々と一緒に食事をしていたのに、彼らが来ると、そうするのをやめて離れていました。割札を受けた人たちを恐れたからです）④一緒に働いてきたマルコにがっかりさせられたこともあります。（使徒 15:37, 38バルナバは、マルコと呼ばれるヨハネを連れていくことに決めていた。38 しかしながらパウロは、パンフリアでマルコが一緒に行進するのをやめてしまったことがあるので、彼を連れていくことに賛成できなかった）こうした経験をすると、自分を傷つけた人たちと距離を置きたくなるかもしれません。でもパウロは仲間に對してポジティブな見方をし、エホバに仕え続けました。どんなことが助けになったでしょうか。

5. パウロが仲間との絆を守る上で何が助けになりましたか。（コロサイ 3:13, 14）（挿絵も参照。）

5 パウロは兄弟姉妹を愛していました。その愛は仲間の欠点や弱さではなく、良いところに注目する助けになりました。また、コロサイ 3章 13, 14 節引き続き互いに我慢し、寛大に許し合いましょう。たとえ誰かに不満を感じるとしてもです。エホバ(*)が寛大に許してくださったのですから、同じようにしなければなりません。14 これら全てに加えて、愛を身に着けましょう。愛は完全な絆なのでパウロ自身が書いた通りに仲間を許す力にもなりました。（読む。）パウロがマルコにどのように接したかを考えてみましょう。最初の宣教旅行の途中で、マルコはパウロを置いて帰ってしまいましたが、パウロはそのことを根に持つたりしませんでした。後にコロサイの会衆に宛てた温かい手紙の中で、マルコのことを「とても慰めてくれ」る大切な仲間だと褒めました。（コロ 4:10, 11私と一緒に捕らわれているアリストルコが皆さんによろしくと言っています。バルナバのいとこマルコもよろしくと言っています。（皆さん、もしマルコがそちらに行ったら歓迎するようにとの指示を受けています。）11 ユストと呼ばれるイエスもよろしくと言っています。これらは割札を受けている人たちです。この人たちだけが神の王国のために私と共に働くおり、私をとても慰めて(*力づけ、助けて)くれています）ローマで投獄されていた時には、自分を支えるためにマルコを連れてきてほしいと言いました。（テモニ 4:11私と一緒にいるのはルカだけです。マルコを連れてきてください。私の奉仕を支えてくれるからです）パウロが仲間を許し、愛し続けたことは明らかです。私たちはパウロにどのように倣えるでしょうか。



パウロは、バルナバやマルコと意見がぶつかったこともあった。でも、いつまでも根に持ったりせずに、マルコと一緒に喜んで働いた。（5節を参照。）

6-7. 兄弟姉妹に愛を示し続けるために、どんなことを意識できますか。（ヨハネ第一 4:7）

6 学べること。エホバは私たちが兄弟姉妹を愛し続けることを願っています。（ヨハネ第一 4:7 愛する皆さん、引き続き愛し合いましょう。愛は神からのものだからです。愛する人は皆、神から生まれ、神を知っていますを読む。）誰かに気に障るようなことをされたとしても、その人がエホバに喜ばれることを行いたいと思っていることを疑わないようにしましょう。ただ軽率に行動してしまっただけなかもしれません。（格 12:18 心ない(*軽率な)発言は剣のように突き刺し、賢い人たちの舌は人を癒やす）エホバは私たちが間違いをしても、いつまでも怒ったり見限ったりするのではなく、愛し続けてくれます。（詩 103:9 いつも非難するのでも、ずっと憤ったままでいるのでもない）このような優しいお父さんエホバに私たちも倣いたいと思います。（エフェ 4:32-5:1 親切な人になり、温かい思いやりを示し合い、神がキリストによって寛大に許してくださったように、寛大に許し合いましょう。5 皆さんには子供として神に愛されているのですから、神に倣ってください）

7 終わりが近づいているので、仲間との絆を強めることはとても大切です。今後迫害が厳しくなり、投獄されることもあり得ます。そういう時には兄弟姉妹の支えがますます必要になります。（格 17:17 真の友はどんな時にも愛を示す。苦難の時に頼れる兄弟である）スペインで長老として奉仕しているジュゼップ兄弟は、軍隊に加わらなかつたために他の兄弟たちと一緒に投獄されました。
*一部の名前は変えてあります。こう言っています。「刑務所ではプライバシーがなく、兄弟たちとずっと一緒にいたので、ちょっとしたことでいらっしゃしまいそうになりました。お互いに我慢し、許し合う必要がありました。でも、そうすることで仲間との強い絆を保つことができ、エホバに仕えていない囚人たちがたくさんいる中でも安心していられました。ある時、私は腕にけがをしてギプスをしていたので助けが必要でした。ある兄弟が私の服を洗濯したり、身の回りの世話をしたりしてくれました。一番必要だった時に本物の愛を示してもらいました」。今のうちに仲間との問題を解決したり絆を強めたりしておくことはとても大切です。

夫や妻にがっかりさせられた時

8. 結婚するとどんな問題に遭うかもしれませんか。

8 何の問題もない結婚生活はありません。聖書によれば、結婚する人は「苦難を身に招きます」。
。（コリー 7:28 とはいっても、結婚するとしても、罪を犯すことにはなりません。また、未婚(*童貞/処女)の人が結婚するとしても、罪を犯すことにはなりません。しかし、結婚するなら、苦難を身に招きます。私は皆さんにそういう経験をさせたくないと思っています）結婚すると、性格や好き嫌いの違う2人が一緒に暮らすことになります。相手も完璧ではありませんし、自分とは違う文化や背景で育ったかもしれません。結婚してから初めて気付くちょっとした癖もあるかもしれません。そうしたささいな点も摩擦を生むことがあります。中には問題を解決しようとしている人、全てを相手のせいにする人もいます。もう別居したり離婚したりするしか解決策はない、と決め付けてしまうかもしれません。でも本当にそうでしょうか。*聖書は別居を勧めていません。別居したからといってほかの人と自由に再婚できるとも教えていません。とはいえ、クリスチャンがやむを得ず別居する場合もあります。「いつまでも幸せに暮らします」の本の補足情報4「夫婦の別居(夫が家族を全く養おうとしない/ひどい身体的虐待を受けている/エホバとの縛が非常に脅かされている)」をご覧ください。 気難しい夫との結婚生活を根気強く続けた聖書中の女性の手本に注目してみましょう。

9. アビガイルはどんな問題に直面しましたか。

9 聖書中の例。アビガイルの夫はナバルという荒っぽくて行状が悪い人でした。（サム一 25:3 その人はナバルといい、妻はアビガイルといった。妻は機転が利く美しい人だったが、カレブの子孫である夫は荒っぽくて行状が悪かった） そうした人と一緒に暮らすのは、アビガイルにとって大変だったはずです。でも、そんなつらい毎日を終わらせるチャンスが訪れます。次のイスラエルの王になるダビデが、ナバルを殺しに来たのです。ナバルがダビデとその部下たちを侮辱したからでした。（サム一 25:9-13 それでダビデの部下たちは行き、ダビデの名前を告げて、全てをナバルに伝えた。伝え終えると、10 ナバルはダビデの従者たちに言った。「ダビデとは誰だ。エッサイの子とは誰だ。最近は主人のもとから逃げ出すやつが多い。11 私のパンと水、毛を刈る者たちのためにさばいた肉を、どこの誰だか分からないやつらに与えないといけないのか」。12 部下たちは戻って、全てをダビデに報告した。13 ダビデは直ちに部下たちに言った。「皆、剣を身に着けなさい！」それで彼らは皆剣を身に着け、ダビデも剣を身に着けた。およそ400人がダビデと共に上っていました、200人は荷物のそばにとどまつた）アビガイルは成り行きに任せて、自分だけ逃げることもできました。でもそうするのではなく、ナバルを殺さないようにとダビデを説得しに行きました。（サム一 25:23-27 アビガイルはダビデを見掛けると、急いでロバから下り、ダビデの前でひれ伏した。24 そしてダビデの足元に伏して、こう言った。「悪いのはこの私でございます。どうか、申し上げさせてください。私の言葉をお聞きください。25 どうか、あのどうしようもない男ナバルに心をお向けになりませんように。名前の通りの人ですか。ナバル(m*無分別な/愚かな)がその名前で、分別がない人です。私は、あなたがお遣わしになった部下たちにはお目に掛かりませんでした。26 それで今、生きている神エホバとあなたに懸けて申し上げます。あなたが流血の罪を犯して自分の手で復讐する事がないよう、エホバはあなたをとどめました。あなたの敵と、あなたに危害を加えようとする人がナバルのようになりますように。27 あなたのために持つてまいりましたこの贈り物(d*祝福)を、あなたに従う部下たちにお与えください）どうしてそうしようと思ったのでしょうか。

10. アビガイルが大変な中でも諦めずに頑張れたのはどうしてですか。

10 アビガイルはエホバを愛し、結婚に関するエホバの基準を守りたいと思っていました。アビガイルは、エホバが最初の夫婦であるアダムとエバに伝えたことをよく知っていたと思われます。

(創 2:24) それで、男は父と母から離れて妻にしっかりと付き(*妻とずっと一緒にいて)，2人は一体となるのである) そして、エホバが結婚を神聖な取り決めと見ていることもよく知っていました。アビガイルはエホバに喜んでもらいたいと思っていたので、夫を含む家の者たちを守るためにできる限りのことをしようと思いました。ダビデがナバルを殺すのを止めるためにすぐ行動し、自分の間違いではないのに進んで謝りました。このように勇敢で他の人のために進んで自分を犠牲にするアビガイルのことを、エホバは大切に思っていたに違いありません。夫も妻もこうした手本にどのように倣えるでしょうか。

11. (ア) エホバは夫婦にどんなことを望んでいますか。 (エフェソス 5:33) (イ) カルメン姉妹の手本からどんなことが学べましたか。 (写真と挿絵も参照。)

11 学べること。エホバは、夫や妻が大変だと感じる時にも、結婚生活を続けることを願っています。夫婦が問題の解決に取り組み、愛や敬意を示しながら自分よりも相手を大切にする時、エホバは本当に喜んでくださいます。 (エフェソス 5:33) ともかく、夫の皆さんはそれぞれ、自分を愛するよう妻を愛さなければなりません。一方、妻は夫を深く敬うべきですを読む。) カルメン姉妹は、結婚して6年たってからエホバの証人との聖書レッスンを始め、その後バプテスマを受けました。こう言っています。「主人はそのことをあまり良く思いませんでした。私をエホバに取られたように感じたんだと思います。私をひどくばかにしたり、家を出て行くと脅したりしました」。それでも、カルメン姉妹は50年にもわたって辛抱し、夫に愛や敬意を示し続けました。さらに、こう言っています。「時がたつにつれ、どうすれば夫にもっと優しく接し、上手に話すことができるかが分かってきました。結婚がエホバの神聖な取り決めだと知ってからは、それを守るためにできることを何でもしました。エホバのことを愛していたので、夫と別れるようなことは決してしませんでした」。 *jw.org の「偽物の平和に惑わされないでください ダレル・フライシンガーとデボラ・フライシンガー」という動画も参照。結婚生活を続けるのが難しく思える時も、エホバは頑張り続ける力を与え、支えてくださいます。



家の者を助けるためにできる限りのこととしたアビガイルから何を学べますか。 (11節を参照。)

自分の失敗に落ち込む時

12. 重大な罪を犯すと、どんな気持ちになるかもしれませんか。

12 重大な罪を犯すと、自分はだめな人間だという気持ちになるかもしれません。聖書にも、罪を犯すと「後悔し、打ちのめされた」気持ちになるとあります。（[詩 51:17](#) 神に喜ばれる犠牲は、悔いる気持ち。後悔し、打ちのめされた心を、神よ、あなたは退け(*見下げ)ません）ロバート兄弟は何年も努力し、援助奉仕者になりました。でも、重大な罪を犯し、エホバを裏切ってしまいました。こう言っています。「良心が痛み、押しつぶされそうになりました。すごく怖くなり、泣きながらエホバに祈りました。でも、エホバは祈りをもう聞いてくれないだろうと思いました。エホバを深く傷つけてしまったからです」。私たちも重大な罪を犯すと、心が打ちのめされ、エホバに見捨てられたと感じて、もうエホバに仕えても意味はないと思うかもしれません。（[詩 38:4](#) 私の過ちは頭の上に高く積み重なる。負い切れない重い荷物のように）では、重大な罪を犯しても諦めずにエホバに仕え続けた聖書中的人物について考えてみましょう。

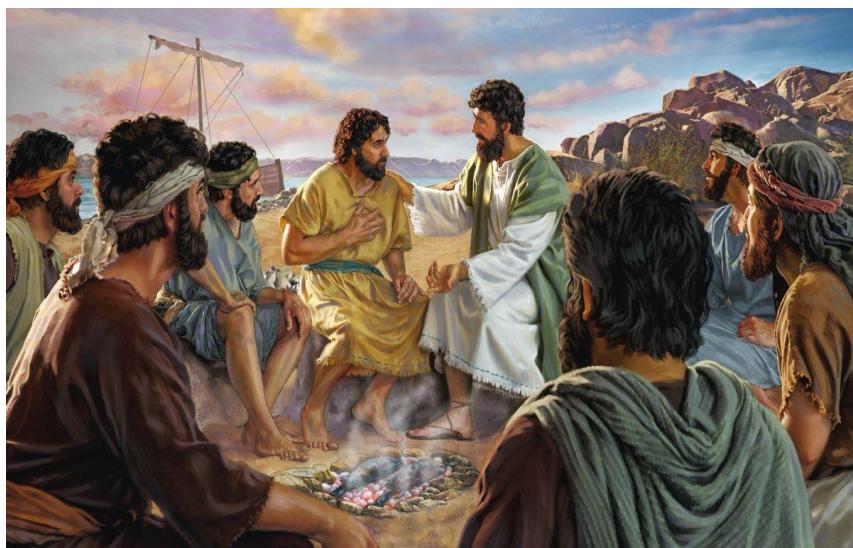
13. イエスが亡くなる前の晩、ペテロはどんな失敗をしましたか。

13 聖書中の例。イエスが処刑される前の晩、使徒ペテロはたくさんの間違いを犯し、その後、人生で最大の失敗をしてしまいました。例えば、ほかの弟子たちがイエスを見捨てたとしても自分は決して見捨てない、と自信満々に言いました。（[マル 14:27-29](#) イエスは言った。「あなたたちは皆、私を見捨てます。『私は牧者を打つ。すると、羊は散り散りになる』と書いてあるからです。28 しかし私は、生き返らされた後、先にガリラヤに行きます」。29 するとペテロは言った。「たとえほかのみんなが見捨てても、私は見捨てません」）（マタイ 26:35：他の弟子も皆、同じことを言った）[ゲッセマネの庭園](#)にいた時には、イエスに何度も言われてもずっと見張っていることができませんでした。（[マル 14:32](#) ゲッセマネという所に来ると、イエスは弟子たちに言った。「私が祈りをする間、ここに座っていなさい」，[37-41](#) イエスは戻り、3人が眠っているのを見て、ペテロに言った。「シモン、眠っているのですか。1時間見張っている力もなかったのですか。38 ずっと見張っていて絶えず祈り、誘惑に負けないようにしていなさい。もっとも、心は強く願っていても(*やる気はあっても)，肉体は弱いのです」。39 イエスは再び離れていき、同じことを祈った。40 再び戻ると、3人は眠っていた。まぶたが重くなっていたのである。3人はイエスに何と言つていいか分からなかった。41 それから、イエスは3度目に戻ってきて、言った。「このような時に、あなたたちは眠って休んでいます！もう十分です！時が来ました！さあ、人の子は裏切られて罪人たちに引き渡されます）剣やこん棒を持った人たちがやって来た時には、イエスを見捨てて逃げてしまいました。（[マル 14:50](#) 弟子たちは皆イエスを見捨てて逃げていった）そして、3度もイエスのことを知らないと言い、うそをついていないと誓うことまでしました。（[マル 14:66-71](#) さて、ペテロが下の中庭にいると、大祭司に仕える女性の1人がやって來た。67 ペテロが体を温めているの目にし、ペテロを真っすぐに見て、言った。「あなたも、あのナザレ人イエスと一緒にいました」。68 しかしひてロはそれを否定し、「その人を知らないし、あなたが何を話しているのかも理解できない(*あなたが何を話しているのか分からぬし、理解もできない)」と言って、入り口の方に出ていった。69 そこでも女性はペテロを目にし、そばに立っている人たちに、「この人は彼らの仲間です」と、また言い始めた。70 ペテロは再びそれを否定した。しばらくして、そばに立っていた人たちがまたもやペテロに言いだした。「確かにあなたは彼らの仲間だ。実際、ガリラヤ人ではないか」。71 しかしひてロは、「あなたたちが言つてゐる人など知らない」と言い、うそな

ら神罰を受けてもいいと誓い始めた) 自分の罪の重大さに気付いた時、ペテロは泣き崩れました。きっと罪悪感に打ちのめされたのでしょう。(マル 14:72 すぐに、おんどりが2度目に鳴いた。ペテロは、「おんどりが2度鳴く前に、あなたは3度、私を知らないと言います」とイエスから言わされたことを思い出し、泣き崩れた) 数時間後に、友であるイエスが処刑された時、ペテロがどんな気持ちになったか想像してみてください。本当に情けない気持ちになったはずです。

14. ペテロが諦めずにエホバに仕え続けることができたのはどうしてですか。 (挿絵を参照。)

14 ペテロが諦めずにエホバに仕え続けることができたのはどうしてでしょうか。①まず、ペテロは独りきりにならないようにしました。仲間の兄弟たちと一緒にいて、力をもらいました。(ルカ 24:33 2人はすぐさま立ち上がってエルサレムに戻った。11人と他の人たちが集まっていて、) ②また、復活したイエスがペテロの前に現れました。おそらく励ますためでしょう。(ルカ 24:34 「主は本当に生き返って、シモンの前に現れたのだ!」と言っていた。コリー 15:5 ケファ(c*ペテロとも呼ばれる)の前に現れ、それから12人の前に現れたことです) ③その後、イエスはペテロの失敗を責めるどころか、ペテロがより大きな責任を担うことになると伝えました。(ヨハ 21:15-17 弟子たちが朝食を終えると、イエスはシモン・ペテロに言った。「ヨハネの子シモン、これら以上に私を愛していますか?」ペテロは答えた。「はい、主よ、私があなたに愛情を抱いていることをあなたは知っています」。イエスは言った。「私の子羊を養いなさい」。16 また2度目に、「ヨハネの子シモン、私を愛していますか?」と言った。ペテロは答えた。「はい、主よ、私があなたに愛情を抱いていることをあなたは知っています」。イエスは言った。「私の小さな羊を世話しなさい」。17 そして3度目に、「ヨハネの子シモン、私に愛情を抱いていますか?」と言った。3度目に、「私に愛情を抱いていますか?」と言われ、ペテロは悲しくなって、こう言った。「主よ、あなたは全て分かっています。私があなたに愛情を抱いていることを知っています」。イエスは言った。「私の小さな羊を養いなさい」) ペテロは犯した罪の大きさに気付いていましたが、自分はもうだめだと諦めることはしませんでした。主イエスが自分を見捨てないで愛してくれていると信じていたからです。また、仲間の兄弟たちが支えてくれました。ではペテロの手本からどんなことが学べるでしょうか。



ヨハネ 21章 15-17節にある通り、イエスはペテロを見放したりしなかった。

そのことはペテロがエホバに仕え続ける力になった。(14節を参照。)

15. エホバはどんなことを私たちに確信してほしいと思っていますか。 (詩編 86:5。ローマ 8:38, 39) (写真も参照。)

15 学べること。 エホバは私たちのことを愛し、進んで許したいと思っています。そして、そのことを私たちに確信してほしいとも思っています。 (詩編 86:5 エホバ、あなたは善い方で、快く許してくださいます。あなたに呼び掛ける人全てに、搖るぎない愛を豊かに示してくださいます、ローマ 8:38, 39 私は確信しています。死も、生も、天使も、政府も、今あるものも、これから来るものも、力も、39 高さも、深さも、ほかのどんな創造物も、主であるキリスト・イエスを通して示される神の愛から私たちを引き離すことはできませんを読む。) 罪を犯した時に罪悪感を感じるのは、自然で正しいことです。でもだからといって、自分はもう愛されていないとか許してもらえないとは考えないでください。すぐに助けを求めましょう。先ほどのロバート兄弟はこう言います。「私は自分の力だけで誘惑に立ち向かおうとしたので、罪を犯してしまいました」。兄弟は長老に話す必要があると思いました。こう言っています。「勇気を出して話すと、エホバが長老たちを通して優しく助けてくれていることにすぐに気が付きました。長老たちは私のことを見限らずに愛し続けてくれました。そして、エホバに見捨てられていないということを確信できるように助けてくれました」。私たちも罪を犯すことがあるとしても、心から悔い改め、助けを求め、同じ間違いを繰り返さないように真剣に努力するなら、エホバは快く許し、私たちを愛し続けてくださいます。 (ヨハ一 1:8, 9 「自分には罪がない」と言うなら、私たちは自分を欺いているのであり、心の中に真理がありません。9 自分の罪を告白するなら、神は信頼できる正しい方ですから、罪を許してください、私たちをあらゆる不正から清めてくださいます) そのことを心から信じているなら、間違いを犯すことがあるとしても、諦めずにエホバに仕えていくことができるでしょう。



一生懸命助けてくれる長老たちのことをどう思いますか。 (15節を参照。)

16. 大変な中でもエホバに仕え続けたいと思うのはどうしてですか。

16 エホバは、終わりの時代に住む私たちが頑張ってエホバに仕え続けている姿を見て、とても喜んでくださいます。がっかりすることがあっても、エホバが必ず助けてくださるので、頑張り続けることができます。たとえ傷つけられることがあったとしても、仲間を許し、愛し続けましょう。夫や妻にがっかりさせられることがあっても、問題を解決するためにできる限りのことをしましょう。そうするなら、結婚という神聖な取り決めを大切にし、エホバを深く愛していること

を示せます。もし罪を犯してしまったなら、エホバに助けを求めましょう。エホバが許し、愛してくださっていることを確信し、前を向いてエホバに仕え続けてください。「諦めずに立派なことを行い続け」るなら、必ず良い結果を刈り取ることができます。（[ガラ 6:9](#) それで、諦めずに立派なことを行き続けましょう。諦めない(*疲れ果ててしまわない)なら、やがて刈り取ることになります）

どうすればエホバに仕え続けることができますか

1. 仲間に傷つけられた時

- ・S05 パウロは兄弟姉妹を愛していたので、その愛は仲間の欠点や弱さではなく、良いところに注目する助けになった。
- ・S06 誰かに気に障るようなことをされたとしても、その人がエホバに喜ばれることを行いたいと思っていることを疑わないようとする。私たちが間違いをしても、いつまでも怒ったり見限つたりせず、愛し続けてくれるエホバに倣う
- ・S07 終わりが近づいているので、仲間との絆を強めることはとても大切。今後迫害が厳しくなり、投獄されることもあり得るので、兄弟姉妹の支えがますます必要になることを認識する

2. 夫や妻にがっかりさせられた時

- ・S11 エホバは、夫や妻が大変だと感じる時にも、結婚生活を続けることを願っている。直ぐに別れるようなことをせず、夫婦が問題の解決に取り組み、愛や敬意を示しながら自分よりも相手を大切にする時、エホバは本当に喜んでくださり、頑張り続ける力を与え、支えてくださる

3. 自分の失敗に落ち込む時

- ・S15 エホバは私たちのことを愛し、進んで許したいと思っていて、そのことを私たちに確信してほしいとも思っている。それで罪を犯しても、自分はもう愛されていないとか許してもらえないとは考えない。心から悔い改め、助けを求め、同じ間違いを繰り返さないように真剣に努力するなら、エホバは快く許し、私たちを愛し続けてくださる。そのことを確信する

139番の歌 新しい世界を見つめて

△一部の名前は変えています。

△聖書は別居を勧めていません。別居したからといってほかの人と自由に再婚できるとも教えていません。とはいえ、クリスチャンがやむを得ず別居する場合もあります。「いつまでも幸せに暮らせます」の本の補足情報4「[夫婦の別居](#)」をご覧ください。

△jw.orgの「[偽物の平和に惑わされないでください ダレル・フライシンガーとデボラ・フライシンガー](#)」という動画も参照。

△（[啓 2:3](#)）さらに、あなたはよく忍耐しており、私の名のために辛抱してきました。疲れ果てていません。